

津 麦ニュース 令和8年産作柄報告（確定版）

令和8年8月10日

津地域農業改良普及センター 電話：059-223-5103

生育経過

11月上旬播種と、11月中旬以降播種の小麦ほ場で、草姿や生育経過が異なっており、11月上旬播種のほ場では、11月上旬の雨をもらい基肥が溶け吸収しやすくなり、初期生育がよくなりました。1月下旬には、5～6葉期と平年並みに生育しており、収穫前の麦の草姿も稈長が高く、穂長も長くなりました。しかし、一部ほ場では、良く出来すぎたため、倒伏しているところもありました。

一方、11月中下旬以降播種のほ場では、播種後なかなか降雨がなかったことに加え、気温が冷え込んだこともあり、生育は非常に遅く、一部では停滞しているほ場もありました。1月下旬には、11月中下旬播き3～4葉（12月播きは2～3葉）であり、平年よりも葉齢が1枚ほど遅くなっていました。2月上旬までは生育が停滞気味だったものの、2月中旬以降の降雨をもらい葉色が濃くなり、3月に入ってから気温の上昇とまとまった降雨があり、急速に葉が伸展し、茎立ちしてきました。しかし、茎数は平年よりも大幅に少なくなり、有効茎歩合は高かったものの、穂数が平年より少なくなりました。

R8年産小麦は、出穂期は平年よりやや早くなり、それに伴い、開花期、成熟期、収穫時期は少しずつ前に早くなりました。

R8年産小麦生育基準田 あやひかりの生育ステージ

調査場所	播種月日	出穂期	開花始	開花期	成熟期
芸濃	11月19日	4月8日	4月18日	4月20日	5月30日
安東	11月30日	4月12日	4月15日	4月17日	6月1日
白山	11月17日	4月8日	4月16日	4月18日	5月31日

R8年産小麦は、稈長が短く、穂数は少なく、穂長はやや長い特徴があります。下表は、津市内の11月中下旬播種のあやひかり調査ほ場における成熟期調査の結果であり、共通した傾向が表れています。

R8年産小麦 あやひかりの成熟期調査結果

調査場所	播種月日	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	穂長 (cm)
芸濃	11月19日	73.3 (平年▲6.9)	405 (平年▲30.1)	9.9 (平年+0.4)
安東	11月30日	75.2 (平年▲7.4)	445 (平年▲104.1)	10.5 (平年+1.4)
白山	11月17日	84.7 (平年▲4.3)	476 (平年▲25.3)	10.2 (平年+0.1)

(平年はR3～R7年産の平均値であり、数値はR8年産との差を表す)

気象経過

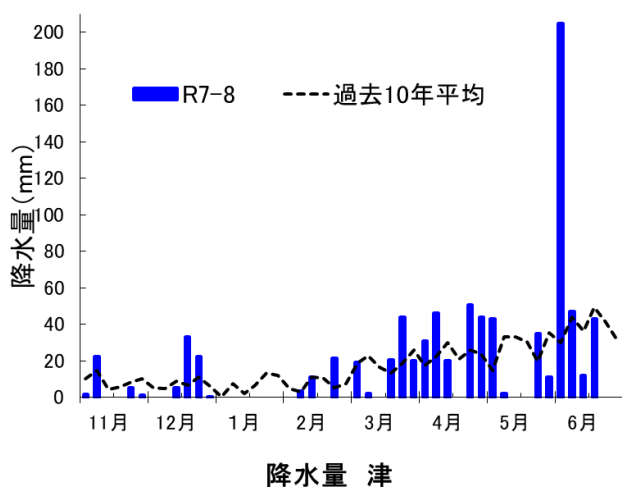
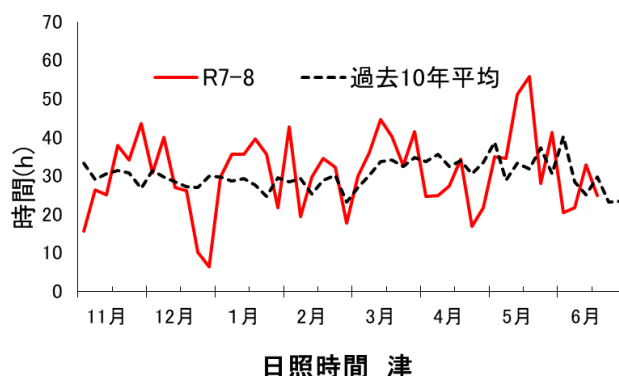
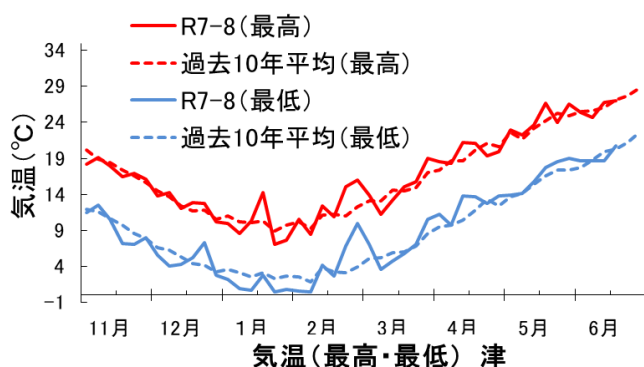
<気温>

1 1月から2月上旬までにかけて、最低気温が平年よりも低く推移し、冷え込む気象となりました。1 1月上旬播種の小麦は、2月の低温の影響を受け、わずかに凍霜害の症状がみられたほ場もありました。

2月中旬から4月にかけては、平年よりも暖かくなりました。併せて降雨もあったことから、この頃以降、麦の生長は急速に進み始めたように観察されました。

<日照時間>

振れ幅が大きいですが、概ね平年並みで推移しました。



<降水量>

2月上旬まで、降水量は非常に少なく、ほ場も乾いており、肥料の効きも悪いように見えてましたが、2月中旬以降は降雨があり、基肥や追肥の窒素栄養が効き、葉色が濃くなっている様子が見られました。4月中旬の赤かび防除時期には、降雨が続くこともなく、適期に防除が実施されていました。6月初旬には台風が到来し、それが小麦の収穫時期と重なるほ場もありました。

赤かび病の発生状況

病虫害発生予報（令和8年4月23日付け三重県病虫害防除所）によると、コムギ赤かび病について、平年に比べ、発生量は「多」、要防除ほ場率は「高」とされていました。しかし、管内では大半のほ場で適期2回防除が実施され、5月のほ場巡回においては、赤かびに罹患した麦はほとんど観察されませんでした。これは、複数回防除による効果が表れたものと考えられます。



収量について

R8年産小麦は、わらが少なく、くずは少なく精麦が多く、千粒重が大きい傾向がありました。穂数が少なかったため、各穂の登熟が良く、一粒一粒が充実したと考えられます。平年よりも収量が良い傾向が見られました。

R8年産小麦 あやひかりの収量調査結果

調査場所	わら重 (kg/10a)	精麦重 (kg/10a)	くず麦重 (kg/10a)	千粒重 (g)
芸濃	476 (平年±0)	511 (平年+9)	8.4 (平年▲2.8)	40.1 (平年+0.9)
安東	481 (平年▲88)	595 (平年+83)	9.3 (平年▲3.0)	38.2 (平年▲1.2)
白山	680 (平年▲56)	858 (平年+172)	2.6 (平年▲5.5)	44.3 (平年+2.9)

(平年はR3～R7年産の平均値であり、数値はR8年産との差を表す)

※調査結果は坪刈で行ったため、実際の収量より多くなる傾向があります。